

既存住宅改修の性能水準案について

性能水準案について

背景

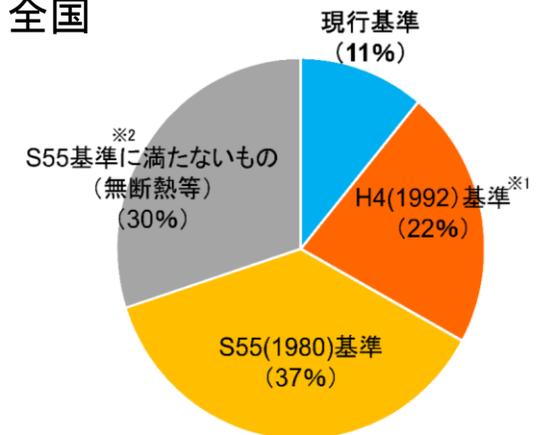
- 全国の住宅ストック（約5,000万戸）のうち省エネ基準に適合している住宅は平成30年度時点で約11%となっており、また、無断熱の住宅は約30%となっている。
- 富山県カーボンニュートラル戦略では、2030年には省エネや断熱性能が向上し、2050年には新築・既存ともに省エネや断熱性能が更に向上し、建物全体でカーボンニュートラルが実現することを目指すとしている。
- 既存住宅の改修については、工事の物理的な制約や費用など、新築時と比べ様々な制約があるほか、家が大きく部屋数が多いという富山県ならではの特徴への対応が必要。

性能水準の考え方

- 新築と同様に2段階の性能水準を設ける。
- 全体改修では、高い性能水準を設けることで、モデルとなる高断熱改修工事の事例を増やすとともに、高断熱改修の認知度を高め普及を図る。また、事業者の技術力の向上を図る。
- 富山の住宅の特徴や高齢世帯の増加などを踏まえて、全体改修だけではなく、使用頻度の高い居間や寝室、風呂、トイレなどに対象を絞ったゾーン改修の水準も設け、省エネルギー化の底上げを図る。
- 地震に対する安心感や、リセールバリューを高めるために、レジリエンス性として一定の耐震性能を確保する。

【住宅ストック（約5,000万戸）の断熱性能】

全国

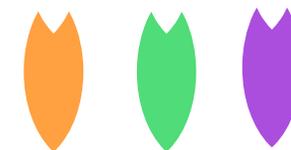


※1:省エネ法に基づき平成4年に定められた基準
※2:省エネ法に基づき昭和55年に定められた基準

出典:統計データ、事業者アンケート等により推計(H30(2018)年)

性能水準案について

心身の健康 安心・心の余裕 思いやり



【全体改修】建物全体を新築住宅（推奨）レベルに断熱化する改修

- 新築に代わる新たな選択肢として普及を目指す
- 空き家活用の推進にもつながる

【ゾーン改修】限定した生活空間だけを断熱化する改修

- 居間や洋室、トイレ、寝室等、普段よく利用する空間に限定した改修を図る
- 住みながらの改修工事やコストを抑えた改修工事が可能

| 要素 | 省エネ基準 | ZEH | 富山ウェルビーイング住宅（仮称） | |
|----------|-------|-----|---------------------|-----------------------|
| | | | ゾーン改修 | 全体改修 |
| 断熱性能 UA値 | 0.87 | 0.6 | 0.60 <ZEH> | 0.34 <G2> |
| 気密性能 C値 | — | — | — | 5.0以下 |
| 耐震性能 | | | 壁量 1 倍 <耐震等級1相当> | 壁量 1.25倍 <耐震等級2相当> |